

第5節

お 話

青年の家では、開会式のあいさつから閉会式のあいさつまで、利用者（研修生）とのラポート（信頼関係）を図り、ともに行動する中で、問題提起や注意を喚起するために積極的にアプローチしています。その中で、前述のベーシック・プログラムの項で説明したように、お話三題がもっともポピュラーに話されてきました。これらお話は、講義・講話・学校の授業ではありません。あくまでも、私たちの日常生活、特に青年の家の生活を基盤においた話しかけであり、話す方と聞く方がともに行動をしながら考えていこうとするものです。それぞれの話は題名が同じであっても、対象（中学生・高校生・青年）によって、具体的な話としてのアプローチは当然違ってきます。楽しい研修の中での、座学の一つです。

とかく寝不足になりがちなプログラムの流れの中での1コマであり、いかに話を飽きさせずに聞かせるかが要求されてきます。

また、3日間の生活を中心とした話であり、3つの「お話」それぞれが深く関連しています。ここでは、「人間の働き」→「集団生活と自由」→「ボランティア・スピリット」の流れを根底において話をしています。

これら以外のお話としては、「ジュニア・リーダーについて」や「リーダーシップ」、「レクリーダーについて」、「青年の生き方」等があり、以前には、「カウンセリング」に関するお話（「カウンセリング概論」や「人間の心理」、「青年心理」、「ロールプレイ」、「人との接し方」等）も話されていました。

青年の家の生活と人間の働き

ここは青年の家です。青年の家は誰が使うところでしょうか？　そうです。青年が使うところです。少年の家ではないのです。この中で、「青年」の人は手を挙げて。……（おそらく0人でしょう。）　それでは、みなさんは夕方には帰るか、1泊だけして明日は帰ってもらいましょう。……（えっ！と驚きの声か、怪訝な顔）

もう一度聞くよ。ここはどこですか？（今度は何人かが挙手）

そう青年の家です。だから、青年の人が泊まって生活するところです。少年は、特別に1泊だけです。2泊するのは「青年」だけです。

君たちは青年かな？えっ！違う？では、少年少女かな？少年少女でもないみたいだね。だって、少年少女は素直で、かわいいもんネ。みんなのように憎らしくないもん。君たち中学2年生は、ちょうど少年少女から青年になろうとしているときなのです。こういう人たちを「ガキ」とか「ジャリ」といいます。（笑い）

ですから、これから3日間は「青年」になる勉強をします。「青年」になったつもりで生活してもらいます。

青年の家では、君たち中学生が来ると、次のようなことを勉強してもらいたいと思っています。

- (1) 自主的に動ける人になる。（自主性のある人）
- (2) みんなのことを（集団のことを）考えた行動のとり方。
- (3) クラスで協力してプログラムを進めていく。
- (4) ボランティア精神について学ぶ。

これからの3日間のプログラムは、この4つのことを考えて作られています。

「自主運営のための係などの打合せ」「オリエンテーリング」「野外炊事」「話し合い」「キャンドルファイヤー」などです。

自分たちで協力していきましょう。

では、今日は「自主的に動ける人になる」ということを中心に、お話しします。

1 自主的に動ける人（自主性のある人）

自主的に動けるということとは、どういうことでしょうか。他人から、「ああしろ、こうしろ」「ああしてはだめだ！」と言われてばかりだと、嫌になってしまうのです。お父さんやお母さん、あるいは先生からガミガミ言われてばかりでいると本当に頭に来るでしょう。……

『ほら！　いつまでテレビを見ているの。宿題は？もう終わったの？』

『えっ終わった！宿題ばかりが勉強ではないでしょう。高校に行けませんよ。』

なーんて、お母さんから言われると、『わかってるよ。いちいち文句を言うんだから。いまから勉強しようと思っていたのに、やる気がなくなった。』と言いたくなるでしょう。

“誰からも文句を言われず、自分のやりたいことを、やりたいように、やれたらなー”と、人間は誰もが思っているのです。でも、これがなかなかできないのです。また、大

変難しいのです。

赤ん坊からいままでに13～14年の間、君たちはお母さんやお父さん、幼稚園や保育園の先生、そして小学校の先生から、いつも『～ちゃん、そんなことをしてはいけません。』、『いい子だから、～しなさい。』、『〇〇君は上級生になったのだから、……』、『君たちは、中学生になったのだから、中学生らしく……』。

今までに、自分から進んでやったことがほとんどないでしょう。自分から進んでやったのは、遊ぶことぐらいかな。その遊びだって、おもちゃやテレビに遊ばされているのではないかな。子どもの時は、それでよかったのかも知れない。しかし、もうそろそろ子どもを卒業しなくては寂しいですネ。

最近ではコンピューターの時代です。コンピューターの発達で、とても精巧なロボットが作られるようになってきました。人間に変わって、いろいろな仕事をしてくれるようになりました。人間がやる以上に正確に、大きな力で、そして一度にたくさんのかんことをやってくれます。しかし、ロボットはやはりロボットです。自分から動くのではないのです。

エネルギーを与えられ、細かい指示・命令がコンピューターに組み込まれていて、いつも言われたとおりのことをするのです。言われたこと以外のことは何もできないのです。機械の調子が、ちょっと狂ってくると、もう何もできません。

天気予報でおなじみの気象衛星もロボットです。とても細かいことや、人間が調べることができないこともちゃんと調べてくれます。しかし、機械の調子が狂ってくると、もうだめです。それを動かしたり、修理する命令・指示を出すのは人間なのです。

これからもコンピューターはどんどん発達するでしょう。でも、どんなに発達しても、それを動かすのは人間なのです。だから、人に言われたことだけをやる人を、私は、「ロボット人間」と言っています。それも本当のロボットより精度の悪いロボットです。言われたこともできない、ロボットより悪い人もいますようです。(笑い)

“ロボット人間になるな！” (板 書)

また、いつもいつも同じことを言われて、やっとなでできるようになり、できるようになって誉められるとうれしくなり、ちょっと失敗すると、怒られてしょんぼりする。そのうちに、怒られないようにピクピクしながら生活する人が出てきてしまいます。こういう人は、「犬みたいな人間」です。犬に芸を教えるとき、どうしますか？

同じことを、何回も何回も繰り返しながら訓練をしませんか。芸ができるようになると、頭をなでたり、エサを与えたりします。芸を少しも覚えないと、「バカ！」なんて言いながら、頭をたたいたりしますよね。犬はエサにつられて、芸をするようになります。考えてみたことがありますか？犬によく「お手！」を教えますが、犬に「手」はあるのでしょうか？前にある2本は前足で、後ろにあるのは後ろ足ですよね。だから、「お手！」といわなくてもいいんです。「バカ！」でも、「こらっ！」でも…。

(※ 時間があれば、条件反射の話をしてよい)

“犬になるな！”

(板 書)

私たちは人間ですから、まずは自分から進んで行動をしましょう。3日間の生活全部がそうですよ。そういった意味では、この3日間、私たち職員も先生も、少し不親切でいこうと思っています。それは、職員や先生から言われてやるのではなく、自分から進んでやって欲しいからです。決して冷たい人間だからではありません。私たちは、温かい人間です。(笑い)

他人を殺したり、けがをさせたりしなければ、失敗をしてもよいのではないのでしょうか。「失敗は、成功の母」と言います。思い切ってやってみましょう。

2 人間らしい行動（人間の働き）

では、自分からやれば、何をしてもいいのでしょうか？ これが、また難しいのです。

「あいつは、なまいきだから、頭にきた！ 殺してしまえ！」

「あーあ、お金が欲しいな！ 銀行強盗をやろう。」

「あーあ、面白くない。青酸カリをお菓子に入れて、世の中を騒がしてやろう！」

これは誰が考えても、おかしいですよネ。そうすると、「人間は自分から進んで、何かをすることは大切だけれども、やってはいけないこともある。」ということですネ。

人が動く（行動）すると、

“ 人 + 動く = 働く ”

(板 書)

という漢字になります。だから、「働く」ということは、人間だけが使える言葉なのでしょう。でも、「働き蜂」とか、「よく働く牛だ」というように使うときもありますネ。これは、人間から見て、「人間のように、よく働く蜂だとか牛だ。」ということでしょう。

蜂や牛が、自分の意志で働いているのでしょうか？ どうも、人間によって、働かされているように思えて仕方がありません。

では、人間のように（人間らしく）とは、どういうことでしょうか？

人間は確かに動物です。だから、人間も動物と同じようなことをするのです。しかし、同じ様なことをやるとしても、人間のとる行動は、他の動物とは少し違うのではないのでしょうか。

例えば、「寝る」ということはどうでしょうか。

眠くなれば眠ります。では、今、このお話の時間に眠くなったらどうしますか？「眠くなったら、寝てよいのでしょうか。」これはだめなのです。だから、今眠くて仕方のない人でも、頑張っているのでしょうか。何故でしょうか。

今、真夜中の12時としましょう。「眠くなったら、寝てよいのでしょうか。」これは寝てよいのです。というよりは、寝なければいけないのです。もうとっくに寝る時間を過ぎているからです。

すると、眠くなっても、寝てよいときと寝てはいけないときがあるのですね。今、このお話の時間に、ブタやサルが40匹ここにいるとしましょう。私は、ブタやサルにお

話をするわけですね。(笑い)

ブタやサルには、このお話はなんだかわからないでしょうね。つまらなくなつて、ブタやサルは眠くなつてきたようです。さあー、ブタやサルはどうするでしょうか？

そう、眠くなったブタやサルはすぐに寝てしまうでしょう。眠くないブタやサルは遊び歩いたり、隣りの人とふざけたり、ブーブーキャッキャッ文句を言ったりするでしょう。ここが人間と違うところですね。同じように腹が減つたとしましょう。ここに、おいしそうなケーキ(エサ)が10個あります。「えっ！どこに！」なんて言わないの、あるつमोरりの話です。

お腹を空かしたブタやサルが40匹います。ブタやサルはどうするでしょう？そうですね、すぐに食べようとするでしょう。でも、40匹のブタやサルにケーキが10個ですから、すぐに喧嘩になるでしょう。強い者が食べることができるのです。(弱肉強食といひます。)ほとんどのブタやサルは食べられません。では、おなかを空かした人間が40人ここにいます。10個のケーキを見た人間はどうするでしょう？ちょっと困つてしまひます。

『俺は腹が減つた。全部食べたい。でも、みんなも腹を空かしている。』

どうするのがよいのか？みんなで分けるのか？どうやって分ける？これが人間なのですね。ブタやサルと違うのです。でも、最近ひ、ブタやサルに近い人間も多くなつてきたようですね。すぐに喧嘩をして取ろうとする人、『ジャンケン！ジャンケン！』と騒ぐ人とか。……

こうしてみると、人間も動物も同じ様なことをする。しかし、そこには違いがある。その違いが「人間の働き」だと思ひます。

“人間としての働き：人間らしい働き→人間の働き” (板 書)

動物は、やりたいことを自分の(？)やりたいように本能的にやる。しかし、

“人間はこういう本能を、自分の意志でコントロールできる” (板 書)

言い換えると、

“人間は、今、何を、どのようにやればよいかを、考へて(考へながら)行動する” (板 書)

ということでしょう。

3 三つの働き

昔の哲学者・科学者にパスカルという人がいました。そのパスカルが、

“人間は 考へる 葦(あし)である。” (板 書)

と言つています。これは有名な言葉です。

人間はこの自然の中では、とても小さく、しかもとても弱いもの（存在）です。ちょうど川辺に生えている「葦」と同じように、大風が吹けば倒れてしまい、また大水が出れば押し流され、火がつけば、すぐに燃えてしまう。しかし、人間は「葦」と違うところがある。それは、「考える」ことができる。というような意味だと思います。

この「考える」ということが、やがて「火」を使うことを覚え、雨をしのぐ小屋（家）を作り、大水による川の氾濫を防ぐ道具やダムを造りだしてきたのです。このようにして道具から機械へと代わり、今日の「文明」を作り出してきたのです。

これからの3日間も、よく考えて行動しましょう。考えるためには、次のようなことに気を配ってみましょう。

(1) どうすればよいのか？ 今までの経験、知識、学んだことから考えてみましょう。

これを「頭の働き」といいます。ちょうどコンピュータのようなものですネ。

“頭の働き……経験・知識から考えて、判断すること。どうすればよいのか考えることです。”
(板 書)

(2) 考えて行動したら、どういう結果になるか。言い換えると、他人にどういう影響を与えるのか。他人はどうして欲しいのかを考えてみます。これを「こころの働き」といいます。簡単にいうと、思いやり・親切心であり、美しいものを美しいと感じたり、他人の喜び・哀しみのわかること、そういう気持ちのことです。

“こころの働き……思いやり、親切心、他人の気持ちの分かること” (板 書)

ここがロボットやコンピューターと違うところです。コンピューターは、すごく頭がいいのです。でも、頭がいいだけでは人間とはいえないのです。

(3) そして、いろいろなことを考えるだけではだめです。考えたことを実行に移すことができるかどうかです。これを「体の働き」といいます。そして、行動をするときに、上手に無駄なくできるかどうかこの「体の働き」になるでしょう。

「本当は、そう思ったんだけど……」

「今からやろうと思っていたのに！」

「こうしたほうがよいと思うけど……」

でも実際には、「何もしなかった」では、いけないのです。

「ちゃんとやったつもりだけど、うまくいかなかった。下手だなー」

経験不足か。考えが足りなかったのか。でも、次の機会には、うまくやりたいものです。

“体の働き……実行力、どのように実行に移すか。上手にやれるか。” (板 書)

これからの3日間の生活が、すべて人間の働きの3日間です。3つの働きを考えながら行動していきましょう。係の活動も、掃除も、レクリエーションも、すべてが「働

きの時間」です。

係の打合せでは、3日間の生活を係の人に任せます。『任せなさい!』という言葉を知りたいものです。任せられたのですから、よくプログラムをみて、考えて計画を立て、みんなで分担して仕事を進めていきましょう。

『あいつら、何をやってんだ!』なんて言われぬように、また『もう、君たちには仕事を任せません』なんて、先生に言われぬようにがんばりましょう。

- ◎進行係……どうしたらプログラムを時間どおりに進めていけるのか。誰が、何時に、何を連絡するのか。休憩時間（トイレタイム）は。他の係との調整は。等
 - ◎会場係……プログラムの一つひとつはどこの場所でやるのか。机やイスはどう並べるのか。誰が並べたり、片づけをするのか。どこに座るのか。座り方（座る場所）は。等
 - ◎記録係……何を、どのように記録するのか。新聞は作るのか。どんな新聞にするのか。（印刷?、壁新聞?）新聞の名前は。誰がどの記事を書くのか。いつ作るのか。他の係からの連絡板の要請はないのか。（掃除当番表、入浴順番表。等）
 - ◎司会係……誰が、どこの司会をするのか。つどいの時の生徒代表の挨拶は、誰にやってもらうのか。つどいの時、急に当てられるとびっくりして困ってしまうよね。
 - ◎生活係……誰が食事の準備をするのか。食器洗いの当番は。食堂の掃除は。ジュースはいつ飲むのか。「いただきます」、「ごちそうさま」をいう人は。食堂の並び方は、生活係が決めるのか、会場係が決めるのか。等
 - ◎レクリエーション係……誰が旗を揚げるのか。降ろすのか。レコード・テープの係は。朝の体操は何をするのか。音楽を流すのか。レクリエーションの時間は何をやるのか。等
 - ◎保健係……掃除分担は。入浴順番は。タオルやトイレトペーパーの補充・交換は。ゴミ箱の処理は。シーツ・枕カバーの配布は。寝具の片づけは。等
- これ以外にも、みんなで楽しく生活するには、やることがたくさんあると思います。もう一度言います。

自分たちで、よく考えてやってみましょう。青年の家の職員や学校の先生は、みんなから相談されれば、いつでも相談に乗ります。

「気がついたら、もっとも良い方法を、自分で考えて、行動しよう」 （板 書）

「失敗は成功の母」といいます。思いきってやってみましょう。人を傷つけたり、けがをさせたり、人を殺したりする危険がない限りは、職員も先生も君たちを見守っていきたいと思います。

(45～60分)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

○解 説

このお話は、ある中学2年生を対象にしたものです。開会式やオリエンテーションの話にもよります。この中学校の研修では、係の打合せの前にお話を入れたので、例え話などの出し方が、上記のようになりました。例話等で飽きさせないで聞かせる工夫が大事です。

なお、2日目に「集団生活と自由」3日目に「ボランティア・スピリット」のお話が予定されています。3日間の生活をとおして、その具体的な行動から例話を引き、興味づけと、反省の繰り返しの中から、いろいろ考えて行動するきっかけづくりをねらっています。

集団生活と自由

今日は「集団生活と自由」というお話をします。昨日は「人間の働き」という話でした。復習をしてみると、

(1) 人間は自分から進んで働くんだということ、自主的に行動することの大切さ。

(2) 人間の働きには、3つの働きがあり、それは、

ア 頭の働きで、考えること。

イ こころの働きで、思いやりとか、相手のことを考えること。

ウ 体の働きで、行動すること。

でした。これをまとめると、「気がついたら、もっとも良い方法で、自分から行動する。」ということでしたね。

しかし、この「気がついたら、もっとも良い方法で、自分から行動する。」ということは、簡単なようで、なかなか難しいのです。昨日から今日へのみなさんの行動はどうだったかな？

自分では一番良い方法だと思って行動しても、後で両親や先生から叱られたり、注意されたり、時には文句を言われたり、思い違いをされたりすることが大変多いものです。

例えば、放送をかけたら、『放送は進行係の仕事だよ』とか、レコードをかけたくても、それはレクリエーション係の仕事で、かけられなかったりね。どうしてでしょうか？考えてみたことがありますか？

○人間は一人で生きられない

人間は、一人で生活をしていません。そこから理由が出てくるのです。誰かと一緒に生活をしているからです。ロビンソン・クルーソーのお話を知っていると思います。船が難破して無人島に流され、そこで一人の生活が始まったわけです。しかし、今は、あんなお話のような生活はありません。でも、ロビンソン・クルーソーのように、もし一人で生活をするなら、自分の思ったとおり、考えたとおりやればよいのです。何をしても他人からは何も言われなからです。それこそ自由気ままに生活をすることができます。もちろん一人で無人島にいるのですから、テレビもありません。ラーメンが食べたいと思っても、ラーメンはありません。もしかすると、難破船にインスタントラーメンが少し残っているかもしれませんが……。トンカツが食べたいと思っても食べることができないでしょう。それでも、誰からも文句を言われずに好きなことができるので、自由なんですね。

では、自由とは何なんでしょうか？

※（省略可）

「自由」という問題は大変難しいのです。哲学、社会学、……。

昔から多くの人たちが考えてきているのです。あるいは、歴史的にみると、「人間の歴史は、自由を勝ちとるための戦いの歴史である。」という人もいます。これから社会科の歴史のところで学びますが、フランス革命とか、アメリカの独立宣言とかね。しかし、今日は歴史の勉強ではありませんから。

私たち人間は、他人からの束縛を受けずに自由に生活したいのです。でも、何をやっても良いのかというと、それはどうも違うようです。このことを少し考えてみましょう。

○消灯時間の話

昨夜の10時30分すぎのことでした。私の寝室は2階にありますから、寝る準備をしようと思って階段を上っていったら、ちょうどトイレの前で、この中の誰かにバッタリ出会いました。そうしたら、その人がこう言うのですよ『今晚は』ですって。そこで私も礼儀正しく返事をしましたよ。『今晚は』ってね。するとその人はあわてたようにブツブツ言いながら『あーあ、眠くないなー、便所へ行って寝よう。』なんてね。何も私にいちいち便所に行って寝ようなんて言う必要もないのにね。便所に行きたければ自分で行けばいいのに……。そのとき突然、目の前の部屋のドアが「バターン！」（ガラガラ）と開いたのです。そして顔がヌーッと出てきて『あっ！』ですって。びっくりしたようにドアが閉まりました。そして中から『おいっ！いるぞ。』『えっ！、誰がよ。』『バカッ！先生だよ。』……。

そのうちバタバタしていた音が静かになってシーンとなっていました。『いる、いる。』だって、私をお化けか何かと思っているのでしょうか。（笑い）

隣の部屋から誰かが飛び出してきて、私の顔を見て『あっ！おやすみなさい。』と言って戻っていった人もいました。何故か枕を2つ3つ抱え込んでいました。まだ私が2階に上がって1分間も経っていないのですよ。その間に私が言った言葉は『今晚は』と『おやすみなさい』の2つだけです。でもまあ、2階はシーンとなっていました。ところが、上を見ると3階は電気がこうこうと点いていました。ガラガラというかゴロゴロというか、歯を磨く音。バターンとトイレのドアの閉まる音。『おやすみなさい』という大きな声。いやはや、びっくりすることだらけです。時間は11時ちょっと前のことです。

夜の11時というのは、何の時間でしょうか。消灯時間はとっくに過ぎています。消灯時間は、電気を消せばそれでいいのでしょうか。この間、小学校の6年生がそう言っていましたよ。

もう一度聞きますが、消灯時間というのは、電気さえ消せばよいのでしょうか？ここが自由の問題なのです。君たちの家で消灯時間が決まっていますか？中学2年生だから10時だとか、10時半だとか。決まっている人は手を挙げてみてください。……（挙手はおそらく0でしょう。）

※ （省略可）

私の家では、5年前まで決まっていました。子どもは9時に消灯でした。ただし、お父さんがナイターを見ているときは9時30分まで良い。（笑い）

今は子どもも大きくなってきましたから、消灯時間はありません。

※

そうです。自分一人で生活をしていたら何時に寝ようと、起きようと、どうでもよいのです。次の日に学校へ行くわけでもないからです。これは自分だけの問題ですから。

明日の朝は6時に起きて魚を捕り、朝食のおかずにしようと思っていても、寝坊をして

しまった。そうすれば魚が捕れないし、朝食のおかずがなかったり、朝食がずーっと遅くなるだけの問題です。しかし、考えてみれば、自分一人だけの生活でしたら、6時とかという時間の概念も必要がなくなるでしょう。

ところが、みんなで共同生活（集団生活）をしていると、消灯時間が決まってくるのです。小学校の修学旅行でも決まっていたでしょう。3年生になって行く修学旅行だって、消灯時間が決まっていることでしょう。大人の人たちが、青年の家で生活するときも、やはり消灯時間が決まっています。

◎ なぜ、消灯時間が決まるのでしょうか？

（ 板 書 ）

それは、お互いが自由な生活をしたいからです。自由な時間なら『何時に寝たってよいではないか。』、『何時まで起きていても自由だ！』 と思う人が多いでしょう。しかし、そこが違うのです。さっきも言ったように、何時に寝ようが、何時まで起きていようが「自由だ！」というのは自分が一人だけで生活をしているときに言えるのです。ところが、集団生活（共同生活）では、それが自由にならないのです。みんなも知っているように、そういうのを「自分勝手」「身勝手」と言い、自分の思ったとおりに何でもやる人を、「わがまま」と言います。

◎ 自由と自分勝手、わがままとは違う

（ 板 書 ）

※ （ お話「人間の働き」に結びつけたとき）

昨日のお話「人間の働き」でいえば、3つの働きのバランスが良くないのです。自分のこと、自分たちだけのことしか考えないのは「こころの働き」がゼロです。ゼロというより、時にはマイナスの働きです。当然、どうしたらよいのかなんて考えていませんから、「頭の働き」もほとんどありません。まあ、中には先生に見つからないようにするには、どうしたらよいか？見張りを立てるか？ドアを使わずに窓からそっと出入りをするか？何て考える人がいるかな。

まるで泥棒のようですが、こういう風に変に頭を使うというか、ずる賢い人もいますよですけど。……（笑い）

では、3つの働きのある行動、バランスのとれた行動はどうすれば良かったのかな？

人間には2つのタイプの人があります。朝型の人……これを「コケッコウ族」とでも言いましょうか……朝早く目が覚め、朝というか、太陽が出ているときの方が体の調子が良い。もう一方は夜型の人、これを「フクロウ族」と名づけましょう。この型の人、朝早く起きることが苦手で、太陽が沈んで鳥の目が見えなくなる頃、電気が点くと元気が出てきて、夜遅くまで起きている人たちです。集団生活では、この2つのタイプの人たちが混在しているのです。

いま、一つの部屋に7人が生活しています。みんなの実状に合わせて(?)コケッコウ族が1人、フクロウ族が6人としましょう。さあ、夜になりました。どうなるでしょう

か？ 夜になると眠くなる人と「さー！これから自分たちの時間だ！」という人が一緒にいるのですから。眠くなったコケコッコウ族が風呂から出てきて、フトンを敷き、電気を消そうとすれば、フクロウ族はおもしろくありません。楽しいのはこれからだと思っているのですから。えっ！問題ないですって！なぜですか？自分たちの部屋は全員フクロウ族だからですって！

そういうのをへ理屈と言います。人から嫌われます。生活をしているのは自分たちの部屋の人たちだけではありません。他の部屋の人も、先生も、私たち青年の家の職員もいます。先生は責任がありますから、みんなのことに気を配っていて、自分は眠くても寝られません。みんな無事に寝つくまでは。かわいそうに、昨夜はほとんど眠れなかったのではないのでしょうか。こんな生活を続けていたら、先生は寝不足で死んでしまうかもしれません。そうなったら、君たちは殺人犯になってしまうのかな？あー、恐ろしい。そんな人たちと私は生活をしているのかな。（笑い）

さて、話をもとに戻しましょう。「フクロウ族」と「コケコッコウ族」のことでしたね。

※ （省略可）

『今は民主主義の時代だから話し合いで決めましょう』と言ったって、これはなかなか結論は出ませんよ。もう眠くてしょうがない人がいるんですから。『君のように、眠いからと言って自分の意見を押しとおそうとするは、わがままだ。君のそういうところがいけないんだ。一度君に忠告しようと思っていた。』なんて始まったりしてね。

では、多数決で決めるのでしょうか？『もう寝たい人？ 1人』、『まだ、眠くない人？ 6人』、『決まりました。6対1です。まだ寝ないことにしました。』……。こんなことってありますか？多数決がすべて正しいとは限らないのです。多数決ですべてが決まったら、テストもなくなるし、学校に行かなくても良くなってしまいます。青年の家などは、プログラムがなくなってしまいます。

『この時間は、数学のテストをします。』、『えっ、テストですか！反対です。』、『先生、多数決で決めましょう。』となるでしょう。お話の時間だってそうですね。『お話、反対！みんなで外で遊びましょう。43対2です。』何かおかしいですよ。こんなことってありませんよね。

※

フクロウ族とコケコッコウ族の両方の意見（寝たい自由と、まだ寝たくない自由）を考えて、消灯時間を決めようということになるでしょう。7時や8時の消灯時間では、フクロウ族が不自由であり、かといって12時や1時にはコケコッコウ族が我慢できない。そこで10時になるのです。10時半でもいいのかもしれませんが。一晩だけで次の日は家に帰ってすぐ寝るといふのなら11時も考えられますが、明日も朝から晩までプログラムがぎっしり詰まっており、まして次の日は、野外活動もあるとなれば8時間の睡眠はとおいた方がよいと、健康上の理由からとも言われます。だから10時消灯、6時起床になることが多いのです。冬になると青年の家は、6時半起床、10時半消灯となります。

10時消灯——これはコケコッコウ族には10時までは少し我慢してもらいますが、それ以降の睡眠は確保され、安心して眠れます。一方、フクロウ族は10時までは安心して起きていて良いのですが、10時以降は我慢します。このようにお互いのこと（相手のこ

と)を考えた行動が集団生活(共同生活)では必要になってくるのです。

※ (省略可)

これが3つの働きのある行動ということになります。

◎ 「みんなのことを考えた行動」 (板書)
 ここ あたま からだ

このようにして、

◎ 「お互いの自由を守りあう」 (板書)

自分の自由のために、相手の自由を奪ってはいけません。だから、言葉を換えると

◎ 「消灯時間は、お互いの自由のためにある。」

と言うこともできます。特に、寝不足などの理由で次の日の行動の危険があると考えられるようなときは、これが「きまり」(規則=ルール)となるのです。「きまり」というものは守りあうものであり、それが約束事なのです。同じように、自動車の運転をする人が『右側を走ろうと、左側を走ろうと自由だ。!』と言ったとしたら大変なことになります。事故が起きてけがをしたり、人が死んだりする危険がありますから、みんなで守りあわなければならない規則となってくるのです。『あっ!ごめん。ついうっかりしちゃった。』なんて謝られたって、死んだ人は帰ってきません。

◎ 「規則は、みんなの自由や安全を守るためにある。」 (板書)

だから、みんなで守るのです。

各係が、昨日の係別打合せや今日の係別打合せで決めたことも、約束事であり、これも「きまり」の一つです。ほかにも人の危険はあまり考えられないが、人に不愉快な思いを与えたり、不自由な思いをさせてもいけないし、また自分もそういうふうにされたら嫌だということもあります。これらは、「規則」にはなっていないけれど、お互いに努力をしようという「約束ごと」みたいなものです。

例えば、入浴の心得なんていうのはそうです。

○入浴の心得

※ (省略可)

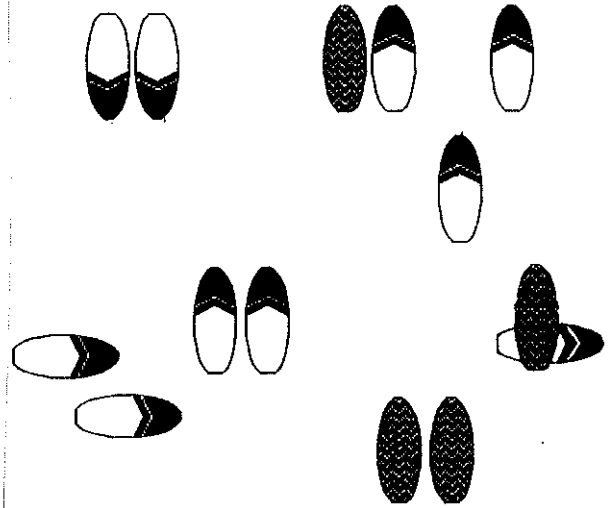
夕べのお風呂のお湯の濁り具合や、風呂桶などの片づけ状況を、少し話す。

- (1) 浴槽にタオルを入れない。
- (2) 掛け湯をして、よく洗ってから中に入る。
- (3) お風呂の中ではふざけない等。

これらがそうです。これは、自分より後に入ってくる人たちのことを考えた行動なのです。タオルを入れたり、掛け湯もしないですぐに、「ドボーン」では、後の人が入るときにはお湯が濁ってしまいます。中には後の人のことを考えてか、それとも思いやりがあるのか、桶の中にお湯を入れたままにしておいてくれる人もいますが。……（笑い）

○トイレのサンダルの話

もう一つ例題を出しましょう。さっき、トイレに行ったら、びっくりしました。トイレという「港」は、朝は相当活気があり、忙しかったと見えて、桟橋に到着している船（サンダル）、今出航したばかりの船、まもなく桟橋に着くころと思われる船、中には転覆している船、まあ一なんとにぎやかなこと。



『トイレのサンダルは、どうしたら良かったのかな？』なんて、今さらみんなに聞く必要はないでしょう。

◎ 「なぜトイレのサンダルは出船型に揃えておくのでしょうか？」 （板書）

これも、後から来る人のことを考えた行動です。「サンダルをどう並べようと自由だ」というのは、決して自由ではないのです。これは先ほど言いましたが、お互いが自由にサンダルを使うためにサンダルを揃えるのです。

これを小さな子ども・幼児に教えるのに、いちいち説明をしてもわかりません。だから、お母さん方は『トイレのスリッパは、使ったら、揃えておくの。』と教えます。これを「しつけ」と言うのです。理由は後で大きくなってから、わかればいい。「しつけ」という漢字は「躰」と書いたのです。自分の行動（身＝振る舞い）を美しくすると言うことでしょう。こういうことは、小さい頃からお母さん方がみんなに教えておくことです。こういうことがしっかりできないと、お母さん方に恥をかかせることになりますよ。『なんだ、あの子は。お母さんは、あんなことも教えていないのか。』と言われてしまいます。

- ・人が話をしているときは、静かに聞きなさい。
- ・咳をするときは、ハンカチや手を口に当てなさい。
- ・トイレに行ったら、手を洗いなさい。
- ・人に会ったら、あいさつをしなさい、など。……

もう一度、お母さんやお父さん、先生がよく言っていることを考えてみることも大切ですね。

このように集団生活（共同生活）では、自分のことだけを考えずに、周りの人のことも

考えて、どうしたらよいのかを忘れてはいけません。人から迷惑をかけられるのは誰だって嫌です。だから、自分も他人に迷惑をかけてはいけません。他人に迷惑をかけた自由なんてないのです。

みんなが、こういうことを考えて生活したら、お互いが「自由」で「快適な」とはいかないまでも、最低「不自由でない生活」ができるのです。昨日からの生活を振り返って、これからの生活は是非こうあって欲しいものです。

私たち大人も頑張りますよ、みんなと一緒にね。

これで今日のお話「集団生活と自由」は終わりです。集団生活の中では、他にもいろいろ考えなければいけないことがあります。例えば、「協力すること」や「自分の責任を果たすこと」、「仲良くすること」とかね。

これから、野外炊事とか野外活動があります。そういうところで考えていきましょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

解 説

- ① 「集団生活と自由」＝「集団生活の中での個人の自由のあり方」ということであり、「自由」に焦点を絞ってあります。ここでは、最低

○ 「自由」と「身勝手・わがまま」の違い

○ 他人を考えた、意識した生活＝他人に迷惑をかけない生活に絞りました。

ちょうど、寝不足で迎えた2日目の午前中のお話ですから、講義では眠くなり、聞く耳を持っていないのが実体です。寝る人が悪いというのは大人の論理であって、叱らずに聞かせることに重点を置いたものであり、過去の経験からできあがった話です。

昔から、青年の家では、お話「集団生活と自由」は「スリッパと消灯の話」ですべてだと言われてきたものです。

- ② このお話は中学生だけでなく、高校生や新入社員、大人の研修でも話せると思います。当然言葉使いは一部変わるでしょう。よく大卒クラスになると「話が幼稚だ！」といわれますが、要は、実生活の中から自分たちの行動を振り返るのであって、理論を講義しているわけではありません。話題の提供なのです。

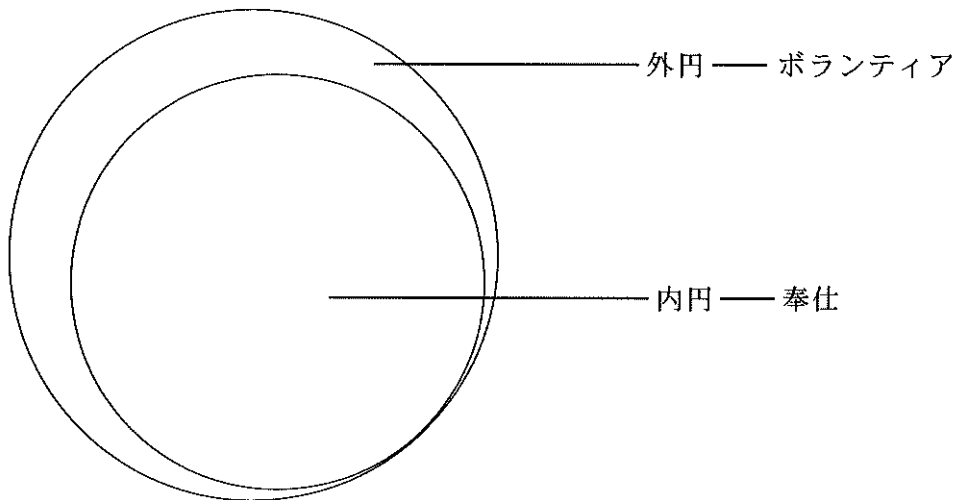
実際に生活を共にして見ていると、大人はさすがに、夜中に騒ぎませんが、大人も子どもあまり変わりません。「集団生活」や「自由」というのは、日本人には苦手なものかもしれません。

ボランティア・スピリット

(中学生・高校生対象：45～90分)

☆Volunteer の語源

普通は「奉仕」と訳されますが、最近ではカタカナで「ボランティア」と書かれていることが多いです。「奉仕」とは辞書によると「報酬を度外視して国家・社会・人のために尽くすこと。」とあります。しかし、「ボランティア」というと、もっと広い意味があるように思います。



「Volunteer」を辞書でひくと ①志願者、有志者、志願兵、義勇兵、篤志家、②進んで提供する、進んで加わる、進んで～する、とあり、また「Voluntary」には、自由意志とか、自発的とか、また、随意のとか等の意味があります。

これらの言葉で共通していることは「自発性」（自分から進んで～する）ということです。簡単に言えば、人から命令や指示をされないで、自分の意志で行動することになります。

「奉仕」も、人から命令されて行動するのではなく、自分の意志で、困っている人や社会のため、障害を持っている人のために尽くすことなので、日本では「Volunteer」を「奉仕」と訳したのです。

小学生や中学生に説明するとき、青年の家では、次のように言っています。

☆ “気がついたら、もっともよい方法で、自分から、行動する” (板書)

例えば、

「廊下に落ちている画びょうを（危ないから）黙って拾える人」ということになります。

(板書)

下線の部分を「問題意識がある」といいます。

「問題意識」ということは「ボケーッ」としていないで、何が問題なのか、どうしてなのか、どうしたらよいのか、ということをつも気にしているということです。この問題意識があるかないかで、その人の生活もすべて変わってきます。勉強するにも、問題意識を持っていなければ、何をどうしてよいのかわからないし、いくら時間をかけても効果がありません。廊下を歩いていても、ボケーッとしていれば画びょうが落ちていても気がつきません。画びょうを踏んで、はじめて「痛てーっ！」ということになります。

次に「黙って拾う」ということが大切になります。

『オイッ！そこに画びょうが落ちているぞ。拾っておけ。』と注意されてやるのではない。先生や親から言われてやるのでもない。自分から、気がついてやることになります。そこに自主性があるのです。『気がつかないから、私はやらない。』というのは、小学生のやんちゃ坊主の言うへ理屈で、まさに第一反抗期のジャリ（子ども）です。（笑い）

この青年の家の2泊3日を振り返ってみると、みんなの中にも多数のボランティアがいました。

☆ ボランティア活動の具体例

- ① 食堂の床にこぼれた水を、雑巾で拭きとっていた。
- ② お盆洗いの時、水浸しになった床を拭いていた。
- ③ 雑巾干し場の雑巾が乾いていたので、取り入れた。
- ④ 椅子が出しっぱなしになっていたので、片付けた。
- ⑤ 窓が汚れていたで拭いた。
- ⑥ 食器洗いの人数が足りそうもないので、手伝いに入った。
- ⑦ 自分の掃除分担区域が終わったので、他の終わっていない場所を手伝った。
- ⑧ 誰もいないのに部屋の電気が点いていたので消した。

また、実際の生活の中にも、いろいろな例があります。

- ⑨ 目の不自由な人が横断歩道で苦勞していたので助けた。
- ⑩ 駅の待合室やプラットホームが殺風景なので花を飾った。
- ⑪ 難民救済の募金活動に協力した。
- ⑫ 老人ホームに慰問に行った。
- ⑬ 点字図書が少ないと聞いたので、点訳奉仕に参加した。
- ⑭ 近所に寝たきり老人がいるので、母親と一緒に手伝った。
- ⑮ 子ども会の活動を手伝った。
- ⑯ 山や川や海岸のクリーン作戦に参加した。
- ⑰ 大地震のとき被災者の救援活動に参加した。
- ⑱ 海岸に漂着したタンカーの流出油の除去作業を手伝った。

こういった活動のことを「ボランティア活動」といいます。こういった人たちがたくさんいるから、世の中がギスギスしないで生活できるのです。ボランティア活動とは、みんなが共に、気持ちよく、明るく、楽しく生活するために必要なことであり、自分のこと

しか考えない人たちには、こういった生活はできないのです。

青年の家のボランティア活動……ある高校生の一日

青年の家でボランティア活動をしたいという人たちがいます。そういった中学生を略して“中ボラ”、高校生を“高ボラ”、大学生を“大ボラ”といいます。彼らは、まず、自分の都合のよい日・時間ができると、青年の家に電話してきます。青年の家の都合がよければOKとなります。慣れているボラだと青年の家につくとすぐに着替えをして、何か仕事を見つけてきては自分から実行しています。ここが大切なのです。自分で仕事を見つけるのです。これが、慣れていないボラだと『何かやることはないですか？』となります。青年の家の職員は『知らないな』と冷たく突き放すのです。

ボラの人たちが、よくやっている活動としては

- ① 窓ガラスを拭く。
- ② ゴミ箱のゴミを捨てる。
- ③ ホウキの掃除をする。
- ④ トイレや洗面所のタオルを交換し、洗濯をする。
- ⑤ トイレトーパーの交換をする。
- ⑥ 乾いた雑巾を取り入れる。
- ⑦ 電気のカサや掃除をする。
- ⑧ グランドの掃除や整備や芝生の草取りをする。
- ⑨ 野外炊事場の整備をする。
- ⑩ 天気がよいときは、フトンを干す。

利用団体が入っているときは、

- ① 団体と一緒に掃除をする。
- ② 食器洗いの手伝いをする。
- ③ 野外炊事後の片づけを手伝う。
- ④ キャンドルファイアーの準備をする等。……

次から次へと仕事を見つけては、やっていく。仕事をするのも休みをとるのも自分で決めるのです。自分がよいと思ったら実行するのです。しかし、よいと思って実行しても職員からはお褒めの言葉もかかりません。それよりも、余計なことをすれば怒られる。

これが勉強なのです。よいことなのか、やってはいけないことなのか、自分で考えながらの行動であり、また、自分で決めたことを最後までやる辛さ、一人でやることの大変さ等……なのです。

青年の家でのボラ活動は団体のためにやるものではありません。ボランティア活動をとおして、

- ① 気がつくこと。
- ② 一人で最後までやること。
- ③ 自主性を大切にすること。

④ 他人のこと、団体のことを考えて行動すること等。……

自分を磨くためなのです。そして、その結果が他人のためにもなっているのです。

青年の家が考えるボランティア

1 自主性・自立性

今までの話や、お話「人間の働き」でも言われたことですから、これ以上は言いませんが、ここで大切なことは「自主」というのは「自分から進んでする」ということです。

しかし、他人（相手）にも自主があることを忘れてはいけないことです。お互いの自主・自由を大切にすることです。（→お話「集団生活と自由」）

また、自分のことは自分でする。自分の感情を自分でコントロールすること（自律）も大切です。それができて、はじめて「自立」ということになります。

2 考える生活

① 先を読む……これから先のこと、次にどうなるのか、この後どうするのか、これから先のことを考えることです。

② 人の立場にたって考える……「こころの働き」。相手（自分以外の人）にも考えや感情があります。自分では「よい」と思っても、相手から見れば、「よい」とは限りません。善意の押し売りには気をつけましょう。

……………（具体的な話を入れる。）

3 知っていることを実践に移す（知行一致・知行合一）

「知っている」だけでは、どうにもなりません。そこに「行動」が伴わなければ何にもなりません。「頭の働き」だけではいけないのです。よく似た言葉に「言行一致」というのがあります。自分が言ったこと、発言したことと自分の行為・行動が一致しなければならないということです。これは昔から人間として大切なこととされてきました。

「男は、黙って…。」どこかで、聞いた言葉ですが。（笑い）

これも昔から「不言実行」とか「沈黙は金」と言われてきた言葉です。しかし、今の時代では、黙っているのではなく、どんどん発言してよいと思います。しかし、自分の発言には、責任をもつべきです。

4 自分の心の中での戦い

① 人間て、弱いものだ。

- ・一人では生きられない。（生活できない）
- ・「頭の中では、理解しているが。……」なかなか実行できない。
- ・「俺一人だけではない。みんなだってそうだ。」という甘え。
- ・「私一人ぐらい、わからないだろう。」という甘え。
- ・こんなにやっているのに、誰かにわかってほしい。
- ・自分だけ目立ちたくない。でも、認めてほしい。
- ・こんなことやってていいのかな？みんなは何をやっているのかな？
- ・他人のことが気になる自分。

人間の心の中には、「こうありたい自分」と「でも……」という2つの感情（自分）があります。そして、いつもこの2つの自分が戦っているのです。（葛藤している）どちらの自分が勝つのかで、その人の行動が決まってきます。

例えば、

- (1) 「6時起床」、チャイムが鳴った。「あっ！起きなければ。」、でも「もう少し寝ていたい。」さあ、どちらの自分が勝つのか。勝てば起きられる、負ければ起きられない。ときとして、『あいつが起きたら、俺も起きよう。』と、自分の意志（決定）を相手の行動に合わせてしまう。その点をつかれると『だって、私だけではないもの。……』これを甘えといいます。
- (2) 今の時間、この2泊3日あまり寝ていない人が多いでしょう。当然眠くなるでしょう。しかし、ここからが自分との戦いです。「頑張らなければ」と「でも眠いなー」。今、必死に頑張っている人が何人かいます。必死になって頑張っている顔は美しく見えます。(笑い)
- (3) 明日は数学のテストだ。今晚は頑張るぞ。テレビは8時までだ。そして、8時半、まだテレビを見ている自分。『あんた、8時半よ。明日はテストでしょ。』と母親の声。
『分かっているよ。うるさいんだから。今やろうとしているのに、もう、やる気がなくなった。』なんて、これも自分に負けた人です。
- (4) 今朝の掃除のとき、チャイムが鳴ってすぐに掃除を始めた人が4～5人いました。眠そうな顔でしたが一生懸命やっていました。その姿を見ていて、この人たちは「自分に勝ったな。」と思いました。こういう人たちは「自分に厳しい」人たちです。もう心配のない人たちです。
- (5) こんな人がいたそうです。高校に入学したとき、「自分は意志の弱い人間だから入学を機会に何かをしよう。」と自分に言いきかせて学校に行ったら、はじめて入った教室がとても汚れていた。そこで、「そうだ、自分はこれから毎日教室の掃除をしよう。」と決意をしたそうです。それから毎日皆より早く学校に行き、掃除をやった。夏休みに入るとき、どうしようか迷ったが、自分で決めたことだと休みでも続けたそうです。

とうとう3年間やりとおしたそうで、そのことを知っているのは業務員のおじさん一人だったということです。3年間で一番うれしかったことは、冬の寒いとき掃除が終わると、業務員のおじさんが業務員室でお茶をいれてくれたことだということです。

こんな人もいるのですね。私もこの話を聞いたときは、びっくりしました。本当に自分に厳しい人がいるんですね。この話は、私が青年の家に勤め始めたときに聞いた話です。そのとき、こんなに立派なことは自分にはできないが、私なりに頑張ろうと思いました。それから、7年たちましたが、まだまだです。

② 人のため、自分のため

人の社会は大勢の人が一緒に生活しています。人と人が、もちつもたれつの社会です。自分のことしか考えない（利己主義一わがままな）人ばかりでは生活ができません。だからといって、人のこと、みんなのこと、全体のことばかり考え、個人個人が無視される生活も嫌です。

一人ひとりの人間がお互いのことを考えつつ、自分自身も一人の人間として大切に

され、お互いが成長していく、そんな社会になりたいものです。他人に干渉されず、自分も他人を干渉しない。しかし、人間みんなが、より楽しく生活できる、そんな社会にしたいものです。そのためには、自分を磨く努力が大切です。

私たち青年の家が考えるボランティアは、このように自分を磨き、お互いが明るく、楽しく、生活しやすい社会を作るための努力と、自分たちの行動にあると考えています。

もう一度、人間としての働きや集団生活を振り返ってみましょう。自分の身の回りに、考えなければいけないこと、やらなければならないことがたくさんあると思います。

昔の難しい言葉に「脚下照顧（きゃっか しょうこ）」というのがあります。自分の足もとをよく照らしてみよう。そして、自分を顧みることから始めようということです。この言葉を皆さんに贈ってこの「お話」を終わりにします。